道守養成ユニットの会

施工状況を知り適切な点検へ

諫早外環「東大川３号橋上部工」で現場見学会

道守養成ユニットの会（吉川國夫会長）は7日、県発注の一般県道諫早外環状線道路改良工事「東大川3号橋上部工」の工事現場で見学会を実施。道守認定者約20人が、普段間近に見ることができない主桁の架設状況などを熱心に見学した。

まず、県央振興局道路第二課の東川久係長が、事業の全体概要や整備効果を説明。同現場については、島原道路の一部を形成する諫早外環状線「諫早インターエ区」に位置し、JR長崎本線と並行して東大川と市道を横断する橋梁を整備するものとした。

エレクションガーダーを前に説明を聞く参加者

桁下の施工状況も熱心に観察

次に、施工者であるオリエンタル白石・公文建設特定JVから、オリエンタル白石㈱の一ノ瀬寛幸氏や、現場代理人の北島勝氏が、橋の構造や主桁の組み立て・架設方法など、具体的な工事内容を解説。橋梁は、ポストテンション方式PC2径間連結コンポ桁橋で、橋長83㍍・幅員約11㍍。主桁は8本で、オリエンタル白石福岡工場で製作し、五分割して現場に運搬。現場でPC鋼より線を挿入し、接合緊張した上で、エレクションガーダーで引き出して、所定の位置に横移動し架設する。これら一連の流れを、写真や動画で紹介した。このうち、PCコンポ桁については、架設した主桁間に、プレストレスを導入したPC版を設置することで、主桁の本数を減らし省力化とコスト縮減を目指したものだとした。

参加者からは、緊張後に充填するグラウトの種類や、PCコンポ桁のメリット（工場製作による品質の確保や現場作業の削減）など、専門的な質問が相次いだ。

その後、実際の橋梁を見学。まず、隣接地に架設済みの鋼橋（小船越IC橋）を、続いて、架設作業中の東大川3号橋を橋の上部と桁下から見学。参加者はそれぞれ、オリエンタル白石の関係者に施工上の注意点や工夫などを熱心に聞いていた。

最後に、ユニットの会の吉川会長が、「われわれ地場の技術者が、なかなか見ることができない大規模工事の施工の様子を見学することができた。施工の状況を知ることは、その後の点検に大いに役立つはず」と、見学会に協力したオリエンタル白石と県央振興局の関係者に深く感謝した。